

大阪自然史フェスティバル2014

日本野鳥の会大阪支部 講演会

森に生きる不思議なサギ ミゾゴイ

～ その暮らしを知り、保護を考える ～

13:00 基調講演 ミゾゴイの魅力 ～分かってきた生態と習性～

(ミゾゴイ研究会 川名 国男氏)

14:00 報告 新梅田シティのミゾゴイを密着追跡した3日間

～採餌行動を中心に～

(日本野鳥の会大阪支部幹事 納家 仁)

14:30 パネルディスカッション「ミゾゴイを守るために ～現状と課題～」

パネリスト:上記2名、橋本正弘氏(大阪府鳥獣専門員)、

佐々木正顕氏(積水ハウス環境推進部)

コーディネーター:和田 岳氏(大阪自然史博物館)

パネルディスカッション ミゾゴイを守るために ～現状と課題～

- 営巣環境の消失
- 個体数の減少
- 生息状況や生態などの把握
- 中継地・越冬地での生態の把握
- 中継地としての都市の緑地の役割
- 環境省の取り組み 保全に関するガイドラインづくり
- 法的な保護の枠組み
- 市民への保護啓発

1 なぜ、ミゾゴイを保護しなければならないか？

- (1) 絶滅危惧種だから...
- (2) 営巣地の自然環境には在来生物が豊かに息づく
(生物多様性の保全)
- (3) 近年、ミゾゴイが急激に減少した理由は何か？
 - ・繁殖地の消失・渡りの中継地・越冬地から考える

2 一般市民の感覚

- (1) 知らない...知らなければ守れない
- (2) なぜ、ミゾゴイへの関心は薄いのか(鳥類関係者も含めて)？
- (3) 鳥の魅力は「かわいい」と「きれい」だけか？
- (4) 人間にとって不快な環境であっても保全することが大事

3 地域行政の問題点

- (1) 東京・あきる野市における営巣地破壊の実例から考えること
- (2) 行政が多用する便利な言葉「生物多様性」に注意が必要
- (3) 何を実行しているか、何をしないか、現実を見極めることが大切
- (4) 鳥と人とのかかわり...生き物との共生は遠い現実
- (5) 市民ができること...要望書、陳情、請願には限界がある。
マスコミの活用。

4 環境省の取り組み

- (1) 環境省が26年度から取り組む「ミゾゴイ保護方策」に実効性を期待する
- (2) 環境省はミゾゴイについて、平成24年度にⅠB類からⅡ類にレッドリストの見直しをしたが、これには根拠がない。
なぜ、変更したか。
- (3) レッドリストは何のためにあるか？